

789 米国木材商クラーク氏の中央大学参観

〔「法学新報」第34卷3（386）号 大正13年3月6日〕

○米国木材商クラーク氏の中央大学参観　今回の震火災に際し多大の同情を以て我国に建築用木材を給付したる米国シアトル木材聯合会社長クラーク氏並に同社重役グリワクス氏は罹災視察として来朝を機とし我中央大学の参観を申込み一月十二日午後一時笠井重治氏同道来観せらる序を以て講堂に於て学生に対し一場の講演を試みられたり先づ笠井氏の紹介の辞あり次てクラーク氏は氏の立志の経歴を述へ十六歳の少時より独立して実業界に入り六十七歳の今日まで努力奮闘を経続し得たるものは青年時代より自分か一度決心したる目的に対しては飽迄奮

闘せること、また自分の時代には今日の如き完全なる教育機関なく唯た実地の経験と云ふ貴き教科書に依りて絶えず頭腦の進歩に勉めたりしこと等を述へられ次でエール大学出身のグリワクス氏は自分は幸にして年も若く大学の課程を終へ実社会に出てしも其の境遇の如何を問はず何人も守るべきことは節制にあり凡ての罪悪とウキスキーとの距離は極めて近く而して婦人の地位を高めざる国民は進歩せる国民と言ひ難し米国の如き婦人の参政権を有する所に於て始めて禁酒の如きことも行はるゝのである等極めて懇切なる訓戒を学生に与へられ夫れより別室にて教授、学生と共に茶菓を饗しつゝ、雑談に耽りて帰途に着たり